

## 同窓生、関良基さん（86期）の新刊紹介

上原 昇（2組）

拓殖大学政経学部教授の関良基さん（86期、京大（農）卒）が以下の新刊を上梓しました。

『江戸の憲法構想 日本近代史の“イフ”』（作品社、24年3月発行、2200円＋税）です。

『赤松小三郎 もう一つの明治維新』（16年12月、作品社から発行）、『日本を開国させた男、松平忠固』（20年7月、作品社から発行）に続く、関さんの著作としては明治維新（幕末）三部作となります。

本の内容は従来の〈明治維新〉史観の徹底批判がメインで興味深いものですが、その評価は読者の判断に委ねることになります。

本の中では、上田藩士赤松小三郎を始め、ジョセフ・ヒコ（濱田彦蔵）、津田真道、西周、山本覚馬など江戸時代の憲法構想について熱く紹介されています。



あとかきの「近代日本の記憶のあり方」と「未来の歴史」を変えるために「」では、時代は「戦後」から「新しい戦前」へと推移しつつある。・・・「新しい戦前」になる未来をこのまま許してはならない」という言葉は重いです。

この本がきっかけとなり、明治維新の評価について議論が深まることが期待されます。

（2024年4月9日記）

以上